

湖水を渡る風〜画図小学校通信〜

第一七号 平成三〇年九月二七日

文責・発行 校長 清田浩文

特集「ゲーム・ネットについて」

続「ゲームやスマホが子どもにもたらす弊害」

脳について

集中力が低下する

ゲームやスマホでは、常に画面が切り替わります。人間の脳は環境に順応してしまつたため、ゲームやスマホを続けていると、脳は常に新たな刺激を求めようになつてしまいます。

その結果、今の状況に集中できず、次の情報を常に求めるようになり、集中力が低下するようになってしまいます。

子どもがゲームに興じている際に、集中してやっているように見えますが、実際はゲームの側に規定された行動を繰り返しやっっているだけですから、脳の集中力の向上には全くつながっていないのです。

読解が浅くなつてしまう

スマホで読むときには、スクロールしながら文字を追いつけます。

このとき、目は常に画面の文字を追っているため、脳の中の「見るための場所」ばかりが刺激されて、「記憶する場所」や「思考する場所」への刺激がおろそかになつてしまいます。

ですから、暗記したり、思考したりするためには、文字が動かない紙の本の方がいいのです。

また、本という「物体」が存在するというのも紙の本のよさです。

スマホで文字情報だけを追っているとき、その刺激は左脳にしか行きませんが、しかし「ページをめくる」という動作など、五感を通じて本という形を認識することで、紙の本の読書は左脳と右脳を同時に刺激することになります。

つまり紙の本による読書は「脳全体を使って読む」ということになるのです。

脳の一部しか使わない「浅い読み」になつてしまうと、脳内の短期記憶を司る部位に読んだ内容が残るため、時間の経過と共に忘れてしまいます。それに対して「深い読み」の場合は、得た知識が脳内の短期記憶を司る部位から長期記憶を司る部位に移行されるため、きちんと定着するのです。

行動全体が受け身になつてしまう

ゲームやスマホをしている子どもは、自主的・能動的に活動しているように見えます。しかし、実際には、特定の動作を繰り返したり、ウェブサイトで本来調べようと思っていたことと違う内容に心を奪われたりしていることが少なくありません。つまり、自主的にではなく、与えられた情報の命じるままに動いています。

人間の脳は、常に受け身で情報を与えられるのに慣れてしまうと、行動全般にその影響が出てしまい、先を見通して、ときばきと動くことができなくなつてしまいます。

本日、「画図ニerlandを開催しました。三年生以上の各クラスが「ホイホイボーリング」や「海賊アドベンチャー」等趣向を凝らした催しで、低学年に楽しい時間を提供していました。

画図小学校ホームページでは、毎日スライドショーを更新しています。

本日は

- ・ 今週の給食（チリコンカン、糸寒天サラダ、野菜スープ）
- ・ 朝のあいさつ運動・五年生
- ・ 音楽集会三・四年生
- ・ おやじの会主催六年生校内キャンプ（肝試し大会）

の様子を紹介しています。

「画図小学校」で検索できます。ご覧くださいませよう、お願いいたします。また、本校の教育活動や今回の内容についてのご意見・ご感想も、よろしく願っています。（これまで、ご意見を寄せてくださった皆様ありがとうございました。今後もよろしく願いたします。）

